

福島第一原子力発電所の状況

平成24年12月10日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (12/10 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約1.9m ³ /h	24.9	105.0 kPa abs	A系: 0.27 vol%
		給水系:約2.4 m ³ /h			B系: 0.30 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約4.0m ³ /h	38.1	5.94 kPa g	A系: 0.04 vol%
		給水系:約1.8 m ³ /h			B系: 0.04 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約4.1m ³ /h	38.9	0.25 kPa g	A系: 0.21 vol%
		給水系:約1.7 m ³ /h			B系: 0.19 vol%

*1 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

- 【1号機】・12/7 23:40 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約2.3m³/hから約2.5m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約1.8m³/hから約2.0m³/hに調整。
 ・12/8 10:40 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約2.3m³/hから約2.5m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約1.8m³/hから約2.0m³/hに調整。
- 【2号機】・12/7 23:40 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約1.8m³/hから約2.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約3.8m³/hから約4.0m³/hに調整。
 ・12/8 10:40 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約1.8m³/hから約2.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量は約4.0m³/hで継続中。
- 【3号機】・12/7 23:40 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約1.7m³/hから約2.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約3.9m³/hから約4.0m³/hに調整。
 ・12/8 10:40 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約1.8m³/hから約2.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量は約4.0m³/hで継続中。

【1号機】～【3号機】

- ・12/10 1～3号機原子炉注水について、12/10 から 12/17 の間に予定されている高台原子炉注水ポンプ上屋(うわや)新設工事のため、12/10 11:14 から 14:05 の間で、常用高台炉注水ポンプからタービン建屋内炉注水ポンプに切り替えを実施。これに伴い、1号機の原子炉への目標注水量(総流量 4.5m³/h)については、タービン建屋内炉注水ポンプの流量下限値(4.5m³/h)と同じであり注水流量の調整が困難となるため、1号機の原子炉への目標注水量が 5.0m³/h(総流量)になるよう、同日 14:05、1号機原子炉への注水について、給水系からの注水量を約2.4m³/hから約2.5m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約1.9m³/hから約2.5m³/hに変更。あわせて、2号機原子炉への注水について、給水系からの注水量を約1.8m³/hから約2.1m³/hに調整、炉心スプレイ系からの注水量を約4.0m³/hで継続、3号機原子炉への注水について、給水系からの注水量を約1.7m³/hから約2.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約4.1m³/hから約4.0m³/hに調整。

<2. 使用済燃料プールの状況> (12/10 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	13.5
2号機	循環冷却システム	運転中	13.7
3号機	循環冷却システム	運転中	11.1
4号機	循環冷却システム	運転中	23

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋 →	3号機タービン建屋	12/8 13:50 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋 →	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	12/7 17:00 ~ 移送実施中

・港湾内の物揚場に係留しているメガフロートについて、今後、港湾内での工事や資機材搬入のために輸送船等を着岸させる必要があることから、港湾内北側に移設する予定。移設にあたり、メガフロートには、5・6号機タービン建屋の溜まり水を貯留しており、低濃度の放射性物質が含まれていることから、海への放射性物質漏えいリスク低減のため 11/22 10:10より11:59まで、メガフロートから5・6号機周辺仮設タンク等への溜まり水の移送を実施。なお、移送については、概ね1ヶ月程度を予定。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (12/10 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H24/12/4 8:42 第二セシウム吸着装置の信頼性向上を目的として、滞留水処理の移送ラインにおけるバックアップラインのうちの耐圧ホースを使用している範囲のポリエチレン管への取り替え工事に伴い、停止。なお、同装置の停止に伴い、同日(12/4) 10:34、セシウム吸着装置を起動し、10:38、定常流量に到達。
- ・H24/12/7 15:42 ポリエチレン管への取り替え工事が完了したことから、第二セシウム吸着装置を起動し、16:42、定常流量に到達。それに伴い、同日(12/7)16:46、セシウム吸着装置を停止。
- ・H24/12/10 午前 10 時 55 分、淡水化装置(逆浸透膜式)3のジャバラハウス内において、パトロール中の協力企業作業員が、水が漏えいしていることを発見。同日午前 10 時 55 分、当該淡水化装置3を停止し、漏えいが停止したことを確認。漏えいした範囲は約4m×約8m×約3mmで堰内に留まっており、ジャバラハウス外への流出はない。漏えいした水の放射能濃度の分析結果は、セシウム 134: 3.9×10^0 Bq/cm³、セシウム 137: 7.1×10^0 Bq/cm³、マンガン 54 : 9.8×10^{-2} Bq/cm³ である。今後、漏えいした原因について調査する予定。なお、淡水化処理した水は十分にることから、原子炉注水への影響はない。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H24/12/7 17:18 頃 三陸沖を震源とする M7.3 の地震が発生。その後、各プラントの点検を行った結果、異常がないことを確認。

以上